

『苗半作、八分作』

農業に昔から伝わる言葉で、「苗の出来によって作柄の半分が決まる」という意味です。それくらい作物栽培にとって苗作りは重要であり、力を入れるべき箇所なのです。

【理想的な苗とは？】

腰が低く、硬くてガッチリした苗！

長く伸びた徒長苗では倒伏や病気の危険性が高くなるだけでなく、収量もあがりません。

【判断のポイント】

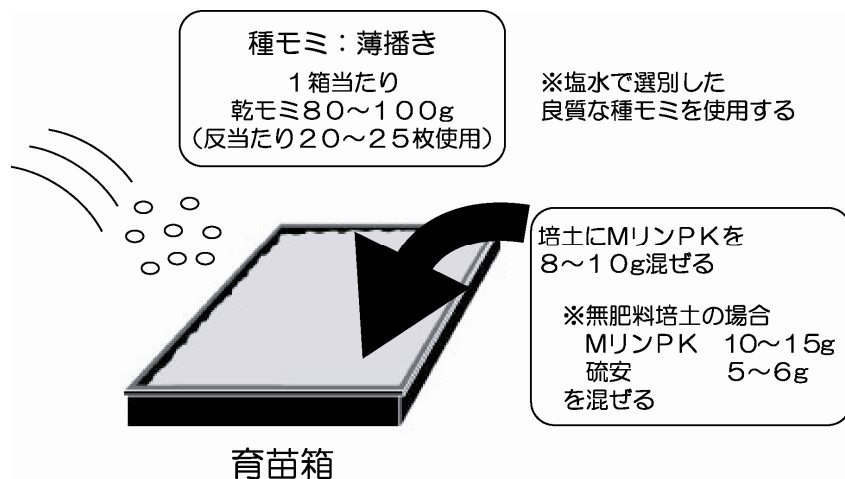
- ・根量が多い
- ・茎が太く短く、まっすぐ
- ・葉に厚みがあり、つやつやしている。

【良質苗のメリット】

根量の確保と、苗の段階で十分な炭水化物を作物体内に蓄えておくことで、定植後の活着を良くし初期生育を促進します。

【苗作りのポイント】

- ① 塩水選でよい種を選別する。(水20Lに塩4.5~5kg)
- ② 薄播き：1箱当たり乾モミ80~100g (反当たり20~25枚使用)
- ③ 培土にMリンPKを混合



【良質な苗を作るための施用例(1箱当たり)】

☆健苗作りと発根促進

【肥料混合済培土の場合】・・・**MリンPK** 8～10gを培土に混合

【無肥料培土の場合】・・・**MリンPK** 10～15g
硫安 5～6g 培土に混合 } を培土に混合

微生物資材 (Mリンカリン) で発酵処理し、「効くリン酸」を実現させた資材。リン酸は光合成を促進し、炭水化物の生成を盛んにします。

炭水化物の生成 (=炭素率の向上) は、発根を促進するホルモンを作るとともに、細胞を密にしてガッチリとした体を作ります。 ※苗作りに使用する MリンPKには粉状がお勧めです。



MリンPK (粉状)

☆低温時や生育不良の場合

苗上手アクセルA・・・200倍液を散水 (1箱当たり300～500cc)

☆高温時や徒長気味の場合

苗上手ブレーキB・・・200倍液を散水 (1箱当たり300～500cc)

チッ素成分を主体にした**苗上手アクセルA**で生育を促し、リン酸成分を多めに含む**苗上手ブレーキB**で徒長を防止します。

適切な生育調整をすることで、春先の不安定な天候でも丈夫で根張りのよい苗に仕上がります。

※苗上手ブレーキBは、本葉1～1.5枚期の散水が効果的です。



苗上手アクセルA (左)

苗上手ブレーキB (右)

※詳しいご質問は各代理店またはミズホ会本部まで